

アベノマスクの在庫処分品が届いた

篠崎 辰夫

昨年10月に「アベノマスク」が約8000枚倉庫に保管されたままになっていることが表面化した。調達したマスクの約3割、金額に換算するとおよそ115億円相当。2020年8月から翌年3月までの保管費用は約6億円にのぼるといふ。

厚生労働省は、希望する自治体や個人に無償配布することとし、昨年12月24日から今年1月28日まで受け付け、申し込み方法を同省ホームページに掲載した。早速、昨年暮れにホームページから注文した。特に必要でも欲しくもなかったが、在庫消化に協力ようと申し込んだ次第。

注文が殺到し、結局在庫の3.5倍に上る2億8000万枚の注文があったとのことで、安倍元首相は、「もっと早くやっていたらよかった」と、この注文殺到を自慢げに語っていた。とんでもない。これの保管料に年間6億円以上かかっている。さらに注文品の発送に5億円以上かかる。配布せずに全て廃棄した場合は6000万円程度の費用で済んだとみられている。最後まで無駄に無駄を重ねて税金の無駄遣いをしているのに、全く反省はない。

このマスクがなかなか届かないので、在庫を大幅にオーバーしたため抽選に外れたのかと半ばあきらめていたが、5月中旬に突然このマスクが佐川宅配便で届いた。マスクは100枚あった。使ってみたが、やはり小さくて、今さら使う気になれない。

そこで、ちょっと厄介だがマスクの両端を切ってマスクの中に入れる「インナーマスク」として使用することにした。なかなか具合がいい。他にもいろいろ使い道を考えようと思う。

それにしても、このアベノマスクの顛末はおそまつとしか言いようがない。マスク支給の発想や調達自体は、当時の状況からやむを得ないとしても、あれだけの在庫をそのままにして年間6億円以上の保管料を払い続け、さらに5億円もの費用を使って送付する。もっと早く6000万円程度の費用で廃棄すべきだったと思う。



(2022/05/15)